

Program03

趣旨説明

稚内開発建設部 管内事業概要

令和6年度

雄大な草原と放牧牛



大型貨物船による風車資機材の荷役 稚内港



白い道(宗谷シーニックバイウェイ)



天塩防災の開通(幌延町：延長1.8km)



共に北海道の未来を創る
第9期北海道総合開発計画

第9期北海道総合開発計画では、北海道が我が国に貢献するための土台を固め、北海道の価値を更に高めるため、**目標1「我が国の豊かな暮らしを支える北海道～食料安全保障、観光立国、ゼロカーボン北海道」**、**目標2「北海道の価値を生み出す北海道型地域構造～生産空間の維持・発展と強靱な国土づくり」**の2つの目標を設定しています。

この宗谷地域は、水産業や農業を主力に、利尻島・礼文島の有人国境離島をはじめ、サロベツ、北オホーツク等の豊かな自然がもたらす観光資源などを活かした、「**生産空間**」及び「**国境周辺地域**」として、重要な地域に位置づけられています。

稚内開発建設部は、産業や暮らしを支える社会資本整備を着実に推進し、地域の活力を高める取組を実施してまいります。

また、政府目標である「**2050年カーボンニュートラル**」と北海道全体で取り組んでいる「**ゼロカーボン北海道**」の実現に向け、CO₂削減のための知見を備えていくことが求められます。現在推進している**インフラDX/i-Construction**をより一層活用し、さらなる創意工夫と豊かな自然・地域資源を活かした取組によりグリーン社会の実現に向けて、強靱で持続可能な国土を形成していきます。

稚内開建X(旧Twitter)



あしたを創る 北の知恵
北海道開発局



宗谷の海・空・大地・そして人とつながる

稚内開発建設部

〒097-8527 稚内市末広5丁目6番1号 電話(代表) 0162-33-1000

稚内開発建設部ホームページ
稚内開発建設部公式Twitterアカウント

<https://www.hkd.mlit.go.jp/wk/>
https://twitter.com/mlit_hkd_wk

稚内開建HP



稚内開発建設部の機構・住所・電話番号[ダイヤルイン]

稚内開発建設部 本部

〒097-8527 稚内市末広5丁目6番1号
電話 0162-33-1000(代表)

部長

次長

調査官

技術管理官

総務課 [0162-33-1030]	職員、組織、情報公開、庁内管理などに関すること
経理課 [0162-33-1038]	会計、国有財産、物品、納入告知などに関すること
契約課 [0162-33-1064]	入札手続、契約、資格審査などに関すること
地域連携課 [0162-33-1185]	北海道総合開発計画、地域振興に係る要望、地域プロジェクトなどに関すること
技術管理課 [0162-33-1088] 技術検査官 [0162-33-1183] 工事品質管理官 [0162-33-1179]	環境保全、積算基準、技術審査、施工確保、技術活用、品質確保、安全対策、建設副産物などに関すること
用地課 [0162-33-1092]	土地等の収用・使用・買収・損失補償などに関すること
公物管理課 [0162-33-1106]	道路の管理・特殊車両通行許可、土地改良財産の管理などに関すること
施設整備課 [0162-33-1125]	船舶及び機械並びに電気通信設備の整備・運用、情報システムの整備・管理、営繕などに関すること
防災課 [0162-33-1113]	災害対策用機械の出動、緊急災害対策派遣隊(TEC-FORCE)に関する連絡調整などに関すること
道路計画課 [0162-33-1146]	道路事業の調査・計画、電線共同溝整備の実施計画などに関すること
道路設計管理官 [0162-33-1231]	道路事業の設計に関すること
道路整備保全課 [0162-33-1159] 道路防災推進官 [0162-33-1137] 道路施工保全官	道路の新設・改築・維持・修繕・交通安全施設等整備・雪害・道路防災事業の実施、電線共同溝整備の実施などに関すること
築港課 [0162-33-1160]	港湾の整備・利用・保安保全、漁港漁場整備事業の実施、空港の土木施設の整備などに関すること
農業開発課 [0162-33-1170]	農業農村整備事業の調査計画・実施などに関すること
広報官 [0162-33-1015]	広報・渉外・行政相談などに関すること
土地改良情報対策官 [0162-33-1186]	農業農村整備事業の広報活動・関係機関との連絡などに関すること

各 事 務 所

稚内道路事務所

〒097-0002 稚内市潮見5丁目7番37号
電話 0162-33-5276

【一般国道 管轄区間】

- ・40号 稚内市～天塩町・幌延町界
- ・238号 稚内市～猿払村富士見橋(浜頓別町側)

所 長

総務課

庶務、経理、道路管理などに関すること

工務課

一般国道の改築・維持・修繕などに関すること

浜頓別道路事務所

〒098-5738 枝幸郡浜頓別町緑ヶ丘6丁目1番地
電話 01634-2-2173

【一般国道 管轄区間】

- ・275号 浜頓別町～音威子府村・中頓別町界
- ・238号 猿払村富士見橋(浜頓別町側)～雄武町・枝幸町界

所 長

総務課

庶務、経理、道路管理などに関すること

工務課

一般国道の改築・維持・修繕などに関すること

稚内港湾事務所

〒097-0001 稚内市末広4丁目5番33号
電話 0162-33-2758

所 長

副 所 長

総務課

庶務、経理などに関すること

第1工務課

稚内港、宗谷港、枝幸港の建設・改良、稚内港の保安、宗谷管内における油保管施設等の油濁防止緊急措置手引書等に関すること

第2工務課

東浦漁港、抜海漁港の漁港漁場整備事業に係る工事並びに稚内空港の土木施設の整備などに関すること

第3工務課

鷺泊港、杓形港、香深港の建設・改良並びに礼文西漁港、仙法志漁港の漁港漁場整備事業に係る工事などに関すること

稚内農業事務所

〒097-8527 稚内市末広5丁目6番1号
電話 0162-33-1190

所 長

総務課

庶務、経理などに関すること

第1工事課

幌延地区の農業農村整備事業に係る工事などに関すること

第2工事課

東宗谷地区、勇知地区の農業農村整備事業に係る工事などに関すること

地域とのコミュニケーション



シーニックバイウェイ北海道 ～宗谷シーニックバイウェイ～



▲地域と連携した秀逸な道区間の清掃活動
(国道238号 稚内市声間)



▲地域ブランドの確立を目指すルートの取組が
ベストシーニックバイウェイ・プロジェクト
2022「魅力ある観光空間づくり賞」を受賞

シーニックバイウェイ北海道は、みちをきっかけに地域住民の方々と行政が連携し、「美しい景観づくり」「活力ある地域づくり」「魅力ある観光空間づくり」を目指す取組です。

宗谷管内では、稚内市、猿払村、浜頓別町、豊富町、礼文町、利尻町、利尻富士町の7市町村にまたがるエリアで「宗谷シーニックバイウェイ」として指定され、現在22の団体が、ルートテーマである「あたたかい最北のみち」の形成を目指し、みちを活かした魅力ある地域づくり、景観づくりの取組を展開しています。

シーニックバイウェイ北海道
ホームページ

<https://www.scenicbyway.jp/>



「わが村は美しくー北海道」運動



▲就労継続支援B型事業所 稚内市北光園
(第11回コンクール「優秀賞」受賞)

「わが村は美しくー北海道」運動は、北海道の農山漁村において、地域の魅力と活力を高めようとする住民主体の活動を全国に伝えるとともに、活動を支援し波及させていくことによって、農山漁村の発展を目指しています。

北海道開発局では、運動の一環としてコンクールを開催し、これまで11回開催しています。第11回コンクールでは、稚内ブロックから5団体の応募があり、「就労継続支援B型事業所 稚内市北光園」が優秀賞を受賞しました。

「わが村は美しくー北海道」運動 ホームページ

https://www.hkd.mlit.go.jp/wk/toti_kairyuu/wagamura.html



北海道におけるサイクルツーリズムの推進 ～きた北海道ルート～



▲受入環境の充実事例
(サイクリスト応援カー)



▲サイクルツーリズム推進に向けた取組
(地域との「TEPPEN-RIDE(テッペン・ライド)」
2023の開催)

世界水準のサイクルツーリズム環境の実現に向けて、安全で快適な自転車走行環境の改善、サイクリストの受入環境の充実、情報発信および地域独自の取組など、官民一体となって推進しています。

宗谷管内では、旭川と宗谷岬を結び利尻島を一周する「きた北海道ルート」において、「サイクリスト応援カー」や「サイクルバス」の運行、旭川と宗谷岬を結ぶサイクルイベント「TEPPEN-RIDE(テッペン・ライド)」を開催するなど、ハード・ソフトの両面から関係機関と連携した取組を推進しています。

サイクルルート北海道
ホームページ

<https://cycle-hokkaido.jp/>



稚内港北防波堤ドームを活用したイベント

稚内港のシンボルであり、北海道遺産・土木学会選奨土木遺産である「稚内港北防波堤ドーム」を活用し、様々なイベント等が行われています。

港湾協力団体である「稚内のみなとを考える女性ネットワーク」が中心となり、地域の合唱、吹奏楽、キッズダンスサークル等が出演する「WAKKANAI みなとコンサート」などのイベントや、寒さに強く潮風にも強い「アルメリア」の植樹を行い、景観への配慮とともににぎわいを創出しています。

「WAKKANAI みなとコンサート」は、国土交通省の「手づくり郷土(ふるさと)賞」を受賞しています。



▲ WAKKANAI みなとコンサート



▲ アルメリアの植樹

海岸での飛砂対策



▲ハマニシンの移植
(浜海漁港)

浜海漁港及び周辺地域では、強風で砂浜から飛散した砂が船揚場や道路に堆積し、漁業活動や住民生活に支障となっています。このため、地域住民や漁業者の方々と協働し、自然と共生した漁港づくりを目指す「地域マリンビジョン」の取組として、「ハマニシン」を砂浜に移植することにより飛砂を抑制し、被害の軽減を目指しています。

学校との連携



◀ 豊富中学校の生徒を対象とした出前講座



稚内東小学校の児童を対象とした一日防災学校

管内の学校と連携し、生徒・児童のための出前講座や一日防災学校、農業農村整備事業・除雪車・港湾業務艇などの見学会を行っています。

地域防災の取組



▲ 防災訓練
(道の駅さるふつ公園)



▲ 災害対策用機械
(衛星通信車) 操作訓練

津波や暴風雪災害発生時には、防災関係機関・民間事業者が迅速に対応できるよう、日頃から相互に連携を図り、被害の拡大防止に努めることが重要です。

「宗谷地方道路防災連携協議会」では、地域防災パートナーシップを構築し、災害発生時の連携・協力体制等について議論・検討を行っています。

さらに、道の駅において、各市町村と役割分担を図りながら「道の駅」の防災設備を整備するとともに、広域的な復興・復旧活動拠点として「防災道の駅」に選定された道の駅「さるふつ公園」では、今後、防災拠点としての役割を果たすため、防災機能の整備・強化やBCP策定・防災訓練等について重点的に支援していきます。

また、災害発生時に迅速に対応できるよう、災害対策用機械の操作訓練を実施しています。

みなとオアシス



◀ クルーズ船お見送り
(沓形港)

みなとオアシス
Sea級グルメ全国大会 in 津沼



宗谷管内では「わっかない」、「れぶん」、「りりりとう・おしどまり」、「りりりとう・くつがた」の4つの「みなとオアシス」が登録されています。

人々の交流やにぎわいをつくりだす、みなとの施設を「みなとオアシス」として認定・登録し、それぞれの運営協議会が行う活動などの広報を支援することにより、みなとを核とした地域の活性化を促進します。

北海道のみなとオアシス ホームページ

https://www.hkd.mlit.go.jp/ky/kk/kou_kei/ud49g700000tn4q.html



第9期 北海道総合開発計画

共に北海道の未来を創る

★食料安全保障を支える



★観光立国を先導



★アイヌ文化の振興



★ゼロカーボン北海道を実現



★北方領土隣接地域の安定振興



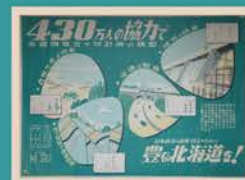
生産空間の定住環境維持



日本の持続的な発展のために

豊かな北海道を！

国土交通省



北海道総合開発計画は、北海道の資源や特性を活かして国の課題解決に寄与するとともに、地域の活力ある発展を図ることを目的に閣議決定される計画です。
左は昭和26年に策定された第1期計画のポスターです。北海道に対する想いが描かれたこの作品への敬意を込めて、本ポスターを作成しました。

【写真提供】北方領土隣接地域の安定振興：©JAXA、アイヌ文化の振興：アイヌ民族文化財団提供、第1期計画のポスター：北海道博物館提供

直近の数年の間に、世界・日本は過去に経験したことのない危機と変化に直面した。
一つはロシアのウクライナ侵略を契機として食料安全保障等の問題が顕在化したこと、
一つは新型コロナウイルスが世界中の人の流れを止めて観光立国日本も揺らいだこと、
一つは2050年のカーボンニュートラル実現が世界の潮流となったこと。

我が国がこれらを乗り越えるためには、
高い食料供給力、魅力的な観光資源、豊富な再生可能エネルギーがおのずから必要となる。
そして、北海道のポテンシャルなくしてそれらは決して乗り越えられない。

北海道の特筆した価値を生む地域を、計画ではその「生み出す力」に着目して「生産空間」と定義付けている。
その「生み出す力」は、生産空間におけるリアルな人の営みによって維持されており、
定住環境を如何に維持していくかが、北海道の価値発揮に対する最も重要な基礎となる。

「他で代替できない北海道の価値」は、人がリアルにそこに住むこと・そこに行くことから生まれる。
全国に10年先んじて進む人口減少や広域分散型社会の課題を乗り越え、北海道の価値を最大化するために
2050年という近未来を見据えて多様な主体と『共に北海道の未来を創る』こと。
それが、多くの関係者と共に創った第9期北海道総合開発計画の中心的メッセージである。

共に北海道の未来を創る

第9期北海道総合開発計画

国土交通省 北海道局・北海道開発局



近年の社会環境の変化

人口減少・少子高齢化、気候変動と自然災害の激甚化・頻発化、社会を変えるデジタル技術の進化、ウクライナ情勢や円安等を背景としたエネルギー・食料品の価格高騰、国際的な供給不安の発生、新型コロナウイルス感染症拡大の影響や、2050年カーボンニュートラル実現に向けた動きなど、我が国を取り巻く状況は急速かつ大きく変化しています。

北海道のポテンシャル

豊かな資源に恵まれた北海道には、これらの変化に立ち向かい、課題を解決するポテンシャルがあります。



高い食料供給力

- 全国約24%の食料生産（カロリーベース）
- 生産量全国一の農畜産物・水産物
小麦、ばれいしょ、たまねぎ、生乳等
ホタテ、タラ、サケ・マス、ホッケ等



魅力的な観光資源

- 来道外国人旅行者数 164万人増
(感染症拡大前の直近5年間で137万人から301万人に)
- 都道府県魅力度 15年連続全国一



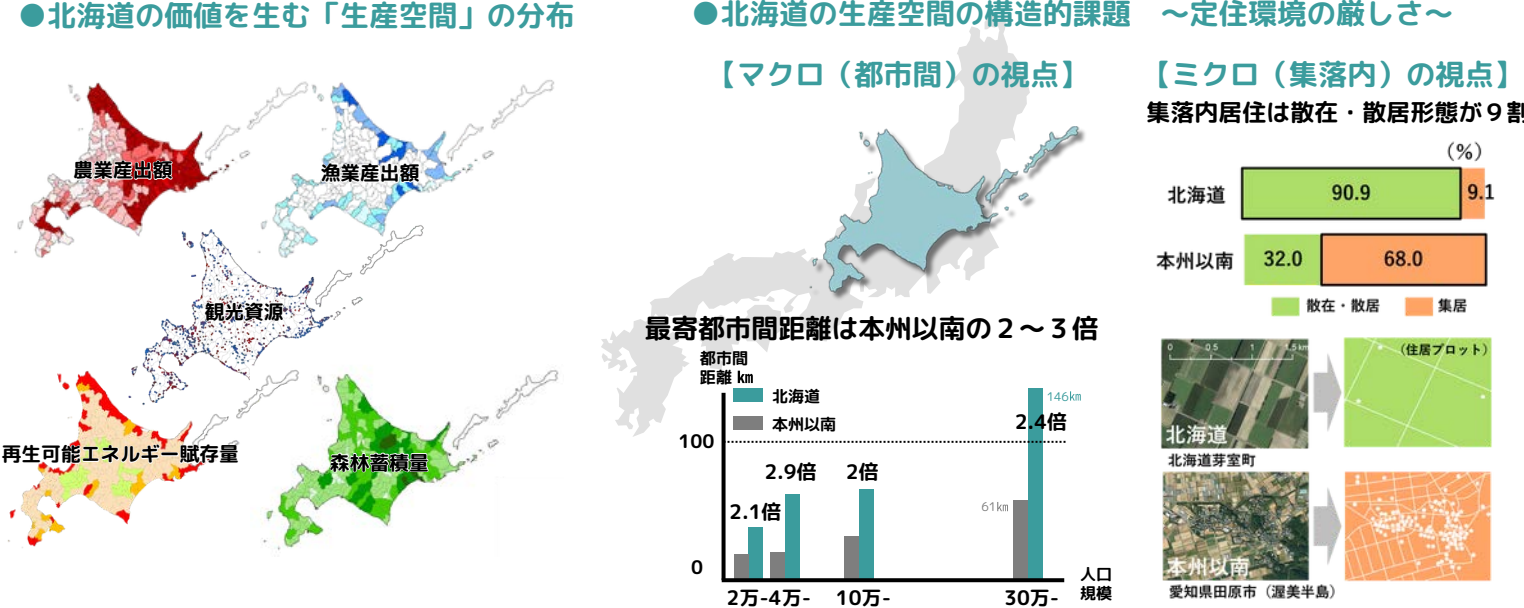
豊富なエネルギー・資源

- 全国一の再生可能エネルギー賦存量
洋上風力、陸上風力、太陽光、バイオマス、中小水力
- 高いCO₂吸収力
全国の森林面積の約22%

食料安全保障、観光立国の再興、2050年カーボンニュートラルの実現に向けて「他で代替できない北海道の価値」を最大化し、現下の国の課題解決を先導します。

北海道の地域構造

高い食料供給力、魅力的な観光資源、豊富な再生可能エネルギーなどの、北海道の価値を生み出す地域「生産空間」は主に地方部に存在しています。



人口減少が進む中で定住環境を維持するには、時間・距離を縮めるネットワークの強化とデジタル技術の活用が必要です。さらに、積雪寒冷の厳しい気候、激甚化・頻発化する自然災害、海溝型地震への対応として国土強靱化を急ぐ必要があります。

生産空間とは

主として農業・漁業に係る生産の場（特に市街地ではない領域）を指します。生産空間は、生産のみならず、観光、脱炭素化に資する森林資源、豊富な再生可能エネルギー導入ポテンシャル、その他多面的・公益的機能を提供し、北海道の価値を生み出しています。

北海道の特筆した価値を生む地域を、計画ではその「生み出す力」に着目して「生産空間」と呼んでいます。

計画の目標

計画期間 2024年度からおおむね10年間

近年の社会環境の変化、北海道のポテンシャル等を踏まえ2050年の長期を見据えて、北海道開発を効果的に進めていきます。

2050年の北海道の将来像

- 食、観光、脱炭素化等の北海道の強みを活かした産業が国内外に展開し、豊かな北海道が実現することで、我が国の経済安全保障に貢献している。
- デジタルの実装により、北海道内の地方部における定住・交流環境が維持されるとともに、国内外から人を魅きつける多様な暮らし方が実現している。

北海道が我が国に貢献するための土台を固め、北海道の価値を更に高めるため、以下の2つの目標を設定します。

目標1
「我が国の豊かな暮らしを支える北海道
～食料安全保障、観光立国、ゼロカーボン北海道～」

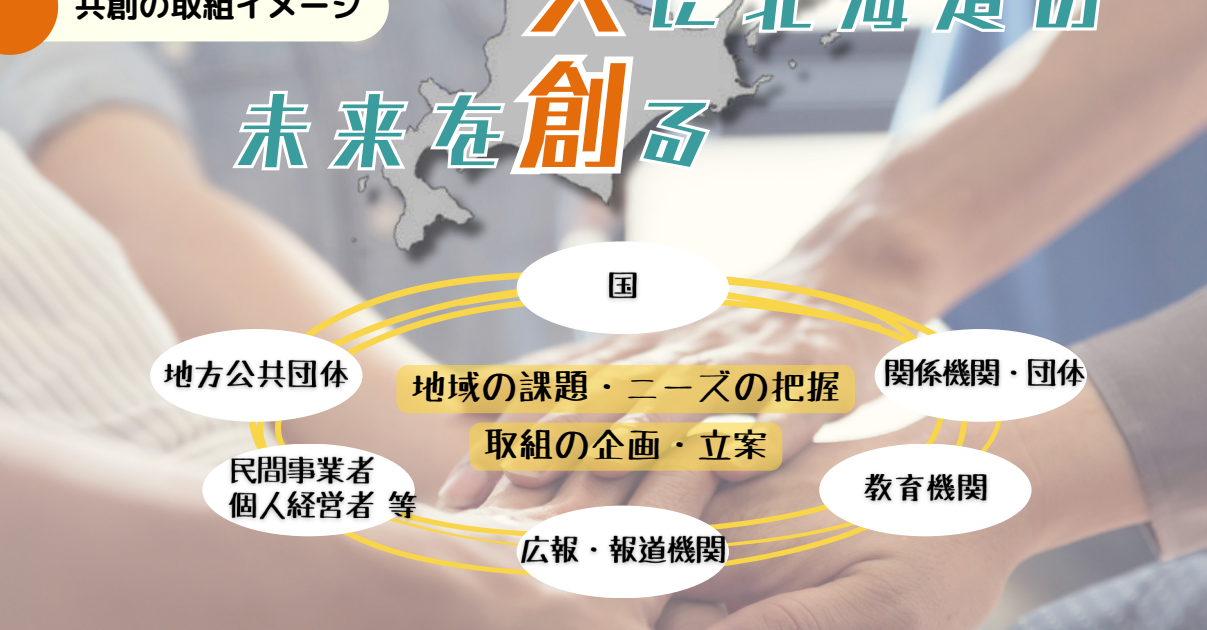
目標2
「北海道の価値を生み出す北海道型地域構造
～生産空間の維持・発展と強靱な国土づくり～」

計画の進め方

- リアルとデジタルのハイブリッドによる北海道型地域構造の保持・形成
生産空間は、人々が分散して生活する地域構造となっていますが、食料生産は実際にその場に住民が住み続ける、観光は実際にその場に行くというリアルを前提に成立しており、リアルを支えるインフラが不可欠です。また、生活環境を維持するためには、時間と空間の制約を克服できるデジタル技術の活用が有効です。
- 計画の実効性を高めるための方策
 - 官民の垣根を越えた「共創」
 - 社会変革の鍵となるDX・GXの推進
 - フロンティア精神の再発揮
 - 戦略的・計画的な社会資本整備

共に北海道の未来を創る

共創の取組イメージ



国

地方公共団体

民間事業者 個人経営者 等

関係機関・団体

教育機関

広報・報道機関

地域の課題・ニーズの把握

取組の企画・立案

国や地方公共団体、住民、NPO、企業、教育機関等と連携・協働し、地域の課題解決や価値向上に向けた「共創」の取組を推進します。

食 観光 脱炭素化

自然共生社会 地域公共交通 デジタル など

主要施策

北海道のポテンシャルを活かし、我が国の豊かな暮らしを支える ～食料安全保障、観光立国、ゼロカーボン北海道

従来の北海道の強みである「食」、「観光」を一層強化し、
「脱炭素化」におけるポテンシャル等の北海道が持つ資源・特性を最大限に活かすため、以下の施策を推進します。

1 食料安全保障を支える
農林水産業・食関連産業の持続的な発展

- (1) 我が国を先導する農林水産業の生産力強化
- (2) 国内外のマーケットに対応したバリューチェーンの構築
- (3) 持続可能な農林水産業の展開
- (4) 農林水産業の持続性を支える農山漁村の振興



▲ スマート農業導入による生産性向上
(無人トラクターによる耕起：岩見沢市)



▲ 農林水産業の持続性を支える農山漁村
の振興(農山漁村の地域活動を支援：
「わが村は美しく-北海道」運動)

2 観光立国を先導する
世界トップクラスの観光地域づくり

- (1) 世界市場に向けた新たな観光コンテンツの創出・拡充と稼ぐ力の向上
- (2) 多様な旅行者の地方部への誘客に向けた安全・安心な受入環境整備
- (3) 自然環境・文化の保全と観光が両立した持続可能な観光地域づくり



▲ 四季を通じたスポーツコンテンツの創出
(ふらのスキー場と大雪山)



▲ アドベンチャートラベルによる旅行者の誘客
(アドベンチャートラベル
・ワールドサミット北海道2023)

3 地球温暖化対策を先導する
ゼロカーボン北海道の実現

- (1) 北海道の地域特性を活かした持続可能な脱炭素社会の形成
- (2) エネルギー基地の形成
- (3) 北海道のCO₂吸収力の発揮



▲ 洋上風力発電の導入促進
(石狩湾新港洋上風力施設)



▲ 水素社会の実現～水素ステーション
(家畜ふん尿由来のバイオガスから水素を
製造・活用：鹿追町提供)

4 地域の強みを活かした
成長産業の形成

- (1) 再生可能エネルギーを活かした産業振興
- (2) 経済安全保障に貢献する先端産業拠点の形成
- (3) 地理的・気候的な優位性を活かした産業振興

▼ 経済安全保障に貢献する先端産業拠点の形成
(次世代半導体製造拠点の建設 Rapidus(株)作成 作図協力鹿島建設(株))



5 自然共生社会・
循環型社会の形成

- (1) 北海道の特性を活かした自然共生社会の形成
- (2) 資源を最大限に利活用する循環型社会の形成

▼ 遊水地等を活用した生態系ネットワークの形成
(長沼町舞鶴遊水地のタンチョウ親子)



6 北方領土隣接地域及び
国境周辺地域の振興

- (1) 北方領土隣接地域の安定振興
- (2) 国境周辺地域の振興

▼ 北方領土隣接地域の安定振興
(オホーツク海上空から見た北海道：JAXA提供)



▼ 国境周辺地域の振興
(利尻空港と利尻富士：利尻富士町提供)



7 アイヌ文化の振興等

アイヌ文化の振興等の推進

▼ アイヌ文化の振興及び
アイヌの伝統等に関する知識の普及啓発
(アイヌの口琴ムックリの演奏体験：アイヌ民族文化財団提供)



主要施策

北海道の価値を生み出す北海道型地域構造の維持 ～生産空間の維持・発展と強靱な国土づくり

北海道型地域構造 の保持・形成を図り、

北海道の価値を生み出す生産空間を維持・発展させるため、以下の施策を推進します。

1 デジタルの活用による生産空間の維持・発展

- (1) 広大な北海道に適したデジタル基盤の整備
- (2) 必要なサービスをデジタル技術で享受できる社会の形成



▲ 高等教育機関、行政機関、企業等におけるデジタル人材の育成・確保
(北海道大学大学院情報科学研究院メディアダイナミクス研究室提供)

▲ ドローン物流の社会実装等物流DXの推進
(全国新スマート物流推進協議会提供)

2 多様で豊かな地域社会の形成

- (1) 人への投資と多様な人材・主体による共創
- (2) 多様な暮らし方・働き方の実現
- (3) 生産空間の暮らしを支える中心市街地の形成と賑わいの場の創出



▲ 人への投資と多様な人材・主体による共創
(地域に貢献する若い世代の育成
：認定NPO法人ほっかいどう学推進フォーラム提供)

▲ 多様な暮らし方・働き方の実現 (テレワーク・ワーケーションの推進)

3 北海道型地域構造を支え、 世界を見据えた人流・物流ネットワークの形成

- (1) 広域分散型社会を支える交通ネットワークの形成
- (2) 産業を支える物流基盤の整備と物流システムの維持・効率化
- (3) 安全・安心な移動環境の確保
- (4) 札幌における交通結節機能と都市機能の強化

▼ 広域分散型社会を支える
交通ネットワークの形成
(函館新外環状道路 空港道路
(赤川IC～函館空港IC))

▼ 産業を支える物流システムの
維持・効率化
(RO-RO船へのトラック積み込み状況：苫小牧西港)

▼ 北海道新幹線の札幌延伸等を見据えた
交通結節機能と都市機能の強化
(札幌駅周辺の将来の姿)



4 生産空間を守り 安全・安心に住み続けられる強靱な国土づくり

- (1) 気候変動に伴い激甚化する水災害に対する北海道の地域特性を踏まえた流域治水の推進
- (2) 日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震等の大規模災害に対する生産・社会基盤の強靱化
- (3) 冬期災害や複合災害に対する防災力の強化
- (4) デジタル技術を活用したインフラの維持管理及び技術開発の推進
- (5) 災害時におけるライフラインの機能確保に向けた施設の耐災害性強化及び多重化・分散化
- (6) 国家的規模の災害時におけるリスク分散

▼ 流域治水の推進
(石狩川と施工中の北村遊水地)

▼ 日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震
への対応
(津波避難タワーの計画・建設：別海町提供)

▼ 持続可能な除排雪等の推進
(ICT技術を活用した除雪作業の省力化 (i-Snow))



第9期北海道総合開発計画 キックオフミーティング

2024 10.8 Tue

14:00～17:00

稚内総合文化センター
稚内市中央3丁目13-23

入場無料

高校生と共に宗谷地域の未来を創ろう

一般参加
申込QR
(先着100名)



Zoom参加
申込QR
(先着500名)



☆ポスターデザイン

稚内大谷高等学校 普通科

西澤 咲雪さん

プログラム
内容紹介
QR



ープログラムー

13:30～14:00 開場・受付

14:00～14:20 主催者挨拶・第9期北海道総合開発計画の概要

稚内開発建設部長 林 憲裕

14:20～14:30 北海道総合計画などについて

宗谷総合振興局長 清水目 剛氏

14:30～15:00 基調講演

「北海道開発の歩みとこれから ー共に未来を創るためにー」

北見工業大学教授 高橋 清氏

15:15～17:00 パネルディスカッション

「宗谷管内の高校生が考える明るい未来」

(コーディネーター) 北見工業大学教授 高橋 清氏

(パネリスト) 「何も無い静かな山奥 ぶんちゃんの家」 小川 文夫氏

NPO法人 街にいき隊PRO 代表 尾崎 篤志氏

FMわっぴー パーソナリティ さっちー (川島 幸子)氏

学校法人 稚内大谷学園 稚内大谷高等学校 校長 平岡 祥孝氏

17:00～ 閉会

- お 願 い -

参加には必ず事前申込が必要です。

右上の各参加方法別 QR コードから申込みください。

- 申込期限 -

9月27日(金) 17:00

- お問い合わせ -

☎0162-33-1185

北海道開発局 稚内開発建設部 地域連携課

基調講演 & コーディネーター



北見工業大学 教授 高橋 清氏 (Takahashi Kiyoshi)



北海道大学大学院工学研究科土木工学専攻博士後期課程修了。工学博士。北海道大学工学部土木工学科助手、東京大学大学院工学系研究科助教授、アジア工科大学院（タイ）助教授等を経て、2011 年より北見工業大学教授に就任。

国土審議会北海道開発分科会計画部会委員、国土交通省社会資本整備審議会道路分科会北海道地方小委員会委員長、北海道サイクルルート連携協議会アドバイザー会議会長をはじめ多くの審議会委員を務める等、交通のインフラに関する研究・活動等において活躍。専門は交通政策、防災計画、物流政策など。

Panelist



何もない静かな山奥 ぶんちゃんの里 小川 文夫氏 (Ogawa Fumio)



浜頓別町豊寒別にて入植 3 代目として生まれ、高校卒業と同時に酪農に従事。1999 年に『ぶんちゃんの里』を開設し、消費者に酪農の魅力を伝えるなどの交流活動を実施。

子供達に「食や命の大切さ」を伝える活動のほか、酪農に興味を持つ若者を研修生等として積極的に受入れ、新規就農等の従業員の育成に尽力。2022 年、52 年間の酪農経営を卒業。現在も、妻 優子さん（地元獺友会にも所属）と二人三脚で交流活動を継続している。



NPO 法人 街にいき隊 PRO 尾崎 篤志氏 (Ozaki Atsushi)



稚内駅前の「THE STAY WAKKANAI」を経営する「生粋の稚内人」。

2010 年に稚内中央商店街振興組合理事長に 38 歳の若さで就任すると、地域情報誌である「Yansh」の発刊等、多彩な活動を展開。その後、中心市街地活性化等を目的に「NPO 法人 街にいき隊 PRO」を設立。2014 年には宗谷管内 10 市町村の情報を発信する「SOYA PARTY」を結成。「稚内森林公園の山道を歩く」などの活動を行っている。2024 年に無料の宗谷の旅マップ「流氷とけて」を発刊。



FM わっぴー パーソナリティ さっちー (川島 幸子) 氏 (Kawashima Sachiko)



天ぷらやの娘として岩内町で生まれ、天井 12 個を配達出来るお嬢様として育つ。利尻島で主人と出会い結婚後、稚内へ転勤しエフエムわっかないに入社。今では一番の古株のパーソナリティとして、月・金曜日のお昼の番組「最北チャンネル」、水曜日の「さっちー・ゲンキのスーパー電リク」のほか、25 年続いている健康番組「おたっしやで何より」、底引き網漁船の隆盛期時代の話などを放送している「和一のなつかしき昭和から明日へ」を担当。街の回覧板としてわっぴーの放送を担う。稚内市の男女共同参画委員としても活動。



稚内大谷高等学校 校長 平岡 祥孝氏 (Hiraoka Yoshiyuki)



北海道大学大学院農業経済学専攻修了。九州大学博士（農学）。静修短期大学・北海道武蔵女子短期大学を経て、札幌大谷大学社会学部教授、2022 年 4 月稚内大谷高等学校校長に就任。学生の就職支援やインターシップ事業に関わってきた経験から、男女共同参画、ワーク・ライフ・バランス、仕事論、生涯教育などのテーマを中心に、講演やメディアでも活躍。浦幌町の広報誌『広報うらほろ』、「仕事について考える」を連載中、『北海道新聞』『水曜夕刊コラムひらさんの異論・暴論・青論』、著書『リーダーが優秀なら組織も悪くない』他多数。

調査の趣旨

稚内開発建設部では、宗谷地域の課題を解決するための方策を検討しているところですが、その一つとして、「管内の高校生の宗谷地域に対する思い等」を把握し、方策の検討の参考にしたいと考え、アンケート調査を実施しました。

□令和6年3月12日策定された第9期北海道総合開発計画は、2050年までの長期を見据えた北海道開発の展開の方向と施策の内容を示すものとして策定されているところです。

□それまでの期間において、社会の中心となって活躍しているのは、現在の高校生達です。よって、今後、第9期北海道総合開発計画を推進するにあたって、まずは、「管内の高校生が考えていること」を把握し、地域全体として受け止める必要があると考えたものです。

対象・方法

●アンケート対象者：宗谷管内の高校生全員（1,143名）

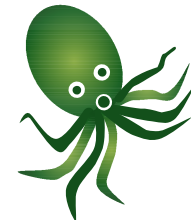
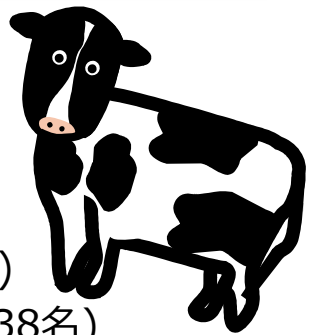
稚内高等学校(523名)
利尻高等学校(60名)

豊富高等学校(47名)
礼文高等学校(52名)

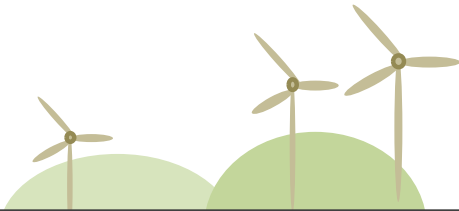
浜頓別高等学校(87名)
稚内養護学校(13名)

枝幸高等学校(123名)
稚内大谷高等学校(238名)

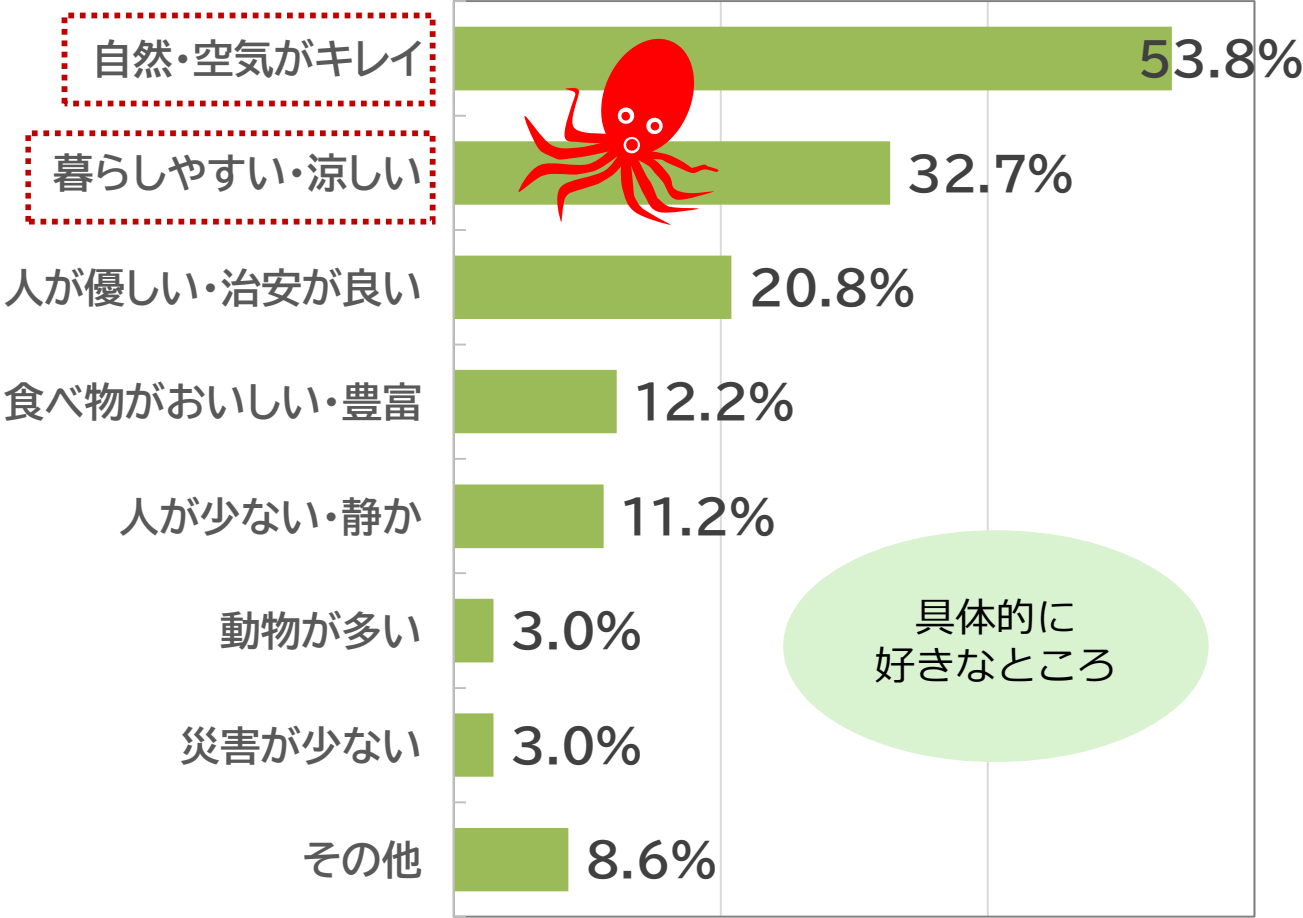
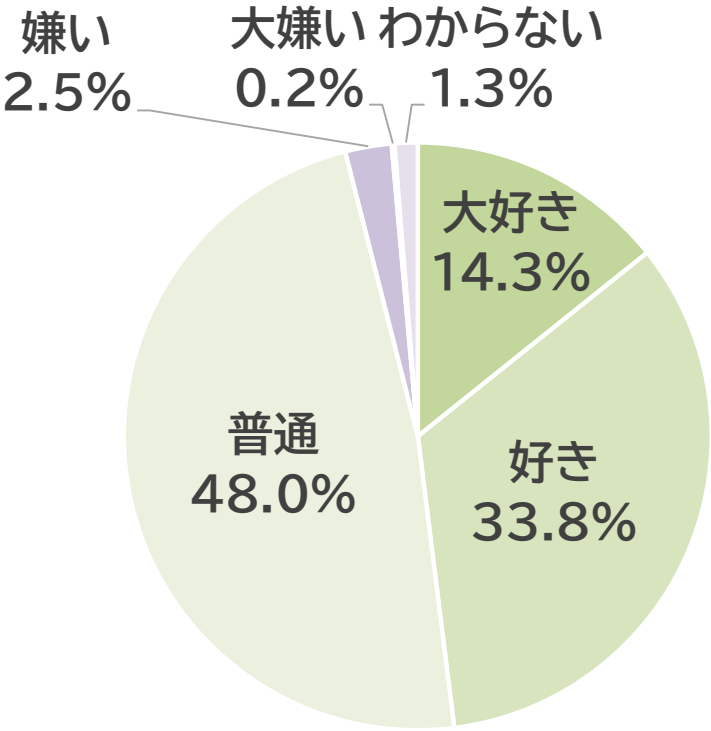
●調査方法：Web・紙



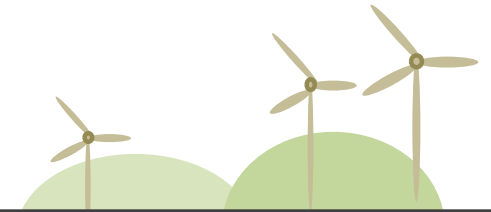
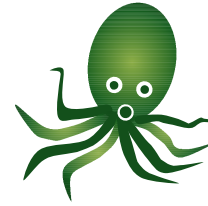
Q 地元が好きですか？



回答	☐ 好き。嫌いな人はほとんどいない
----	--

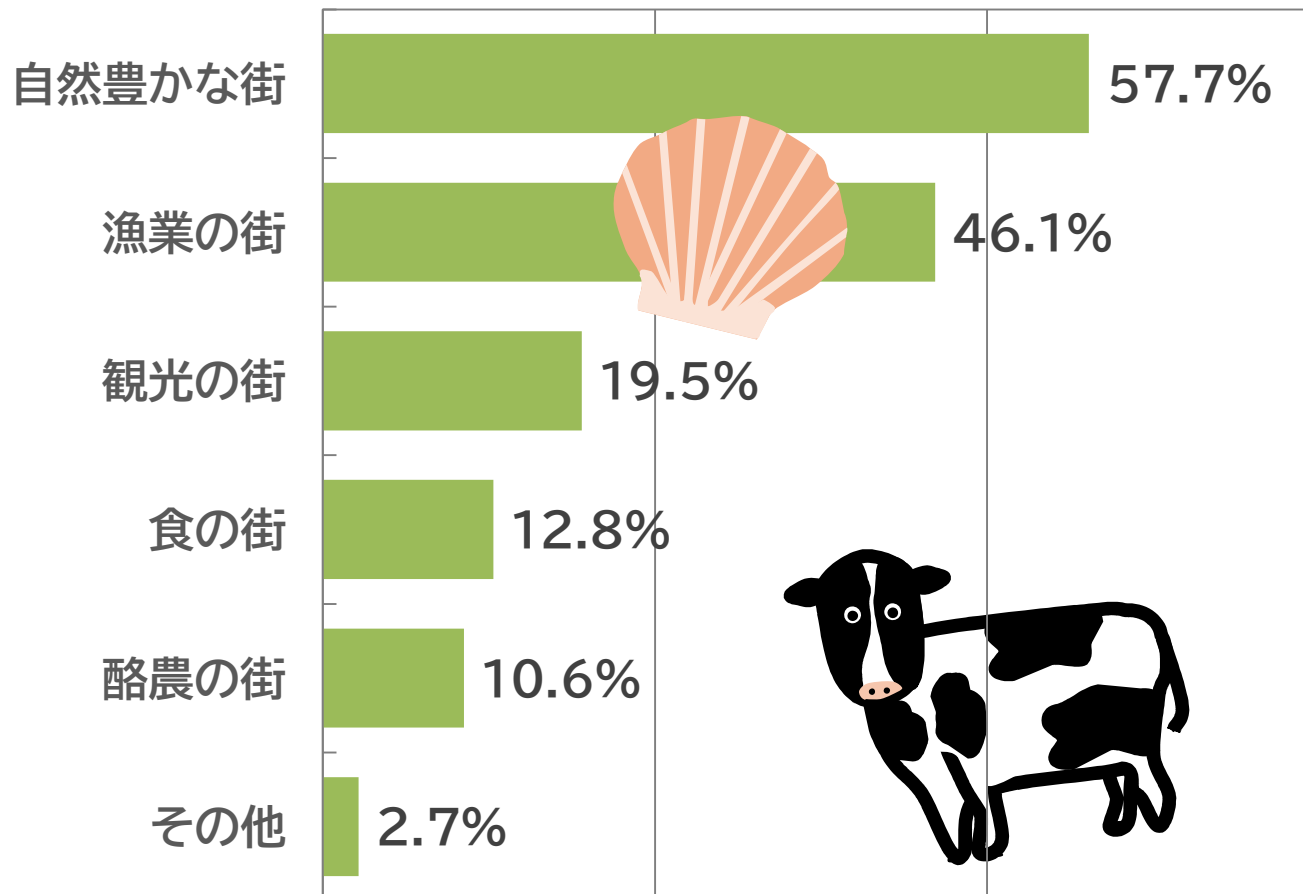


Q 地元に対するイメージは？



回答

- ☐ 自然豊かな街、そして漁業、観光、酪農、食の街



風



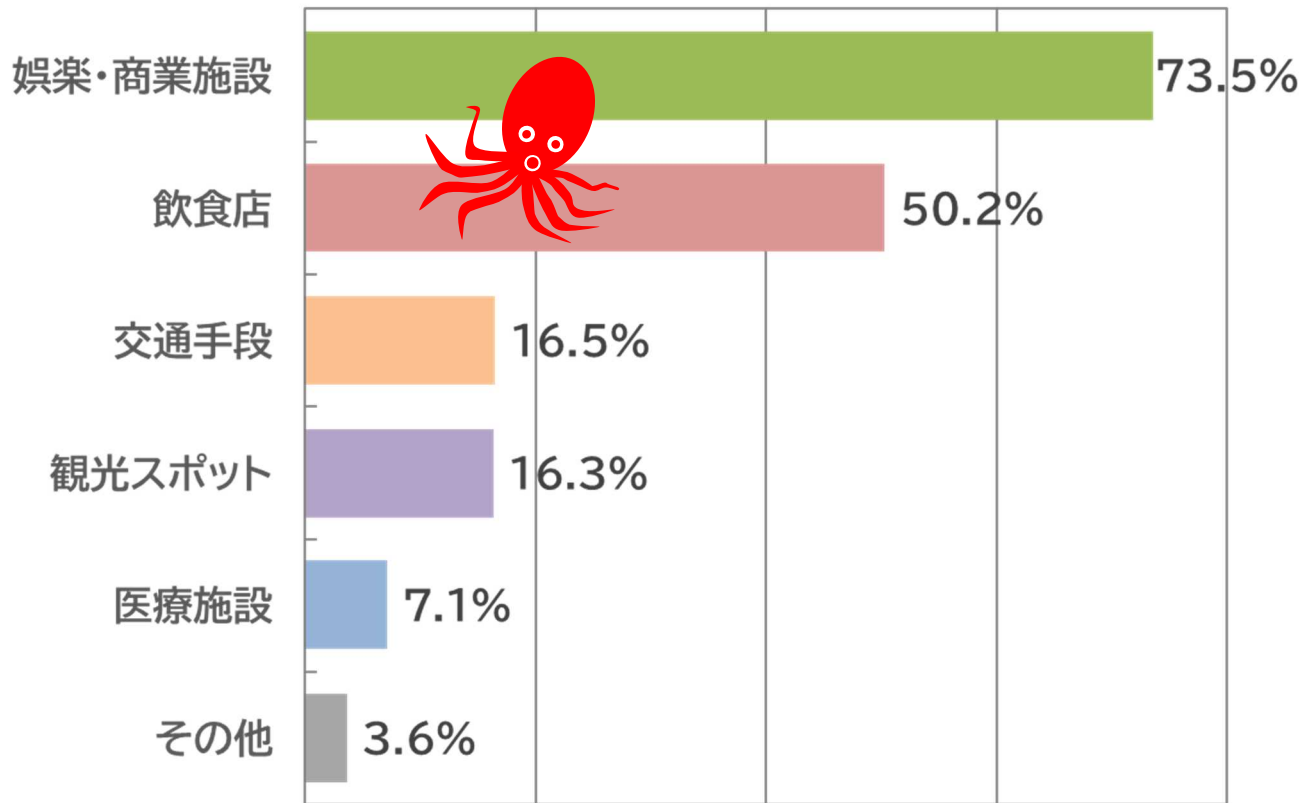
鹿

無

Q 地元に何があればよい？



回答	☐ 遊んで、買物して、そして、食べられるところ。
----	---



◆娯楽施設や飲食店がもっとあれば子供や大人までいろんな人が稚内にいても不自由のなく生活できて稚内にいたくなると思う 【稚内高校】

【分野ごとの具体例】

- イオン(大型店)、コストコ、ラウンドワン、ドン・キホーテ、アウトレットパークなど
- スターバックス、サイゼリア、丸亀製麺、サーティーワン、ケンタッキーなど
- バスの本数を増やす、交通手段が少ない、高速道路が欲しい、路面電車など
- 有名な観光スポット、来たいと思える観光スポット、自然を活かすなど
- 専門的な病院、眼科、24時間医療など

Q いずれは帰ってくる？

回答

❑ Uターンのポテンシャルは75%

◆利尻は、静かで、街の人が優しいから。【利尻高校】

◆恋しいから
【稚内大谷高校】

◆礼文好き【礼文高校】

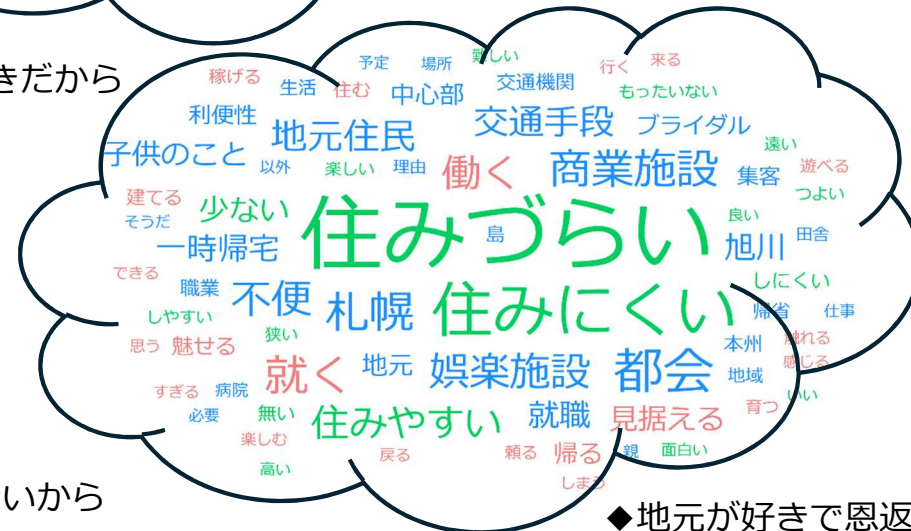
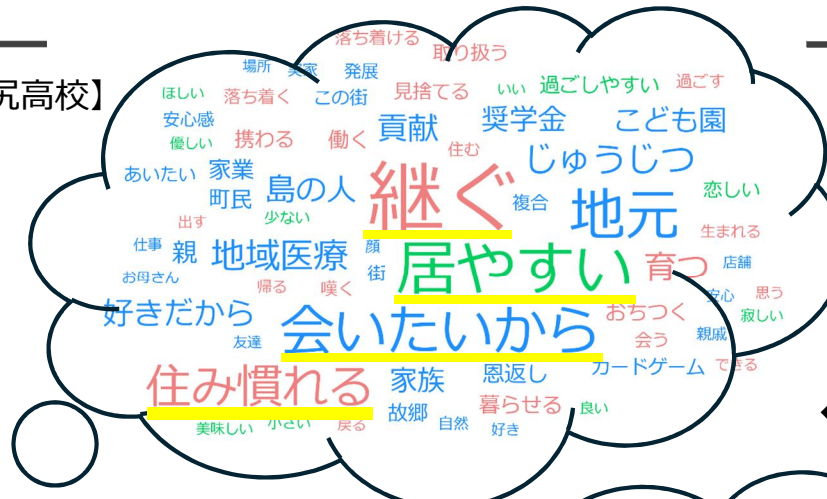
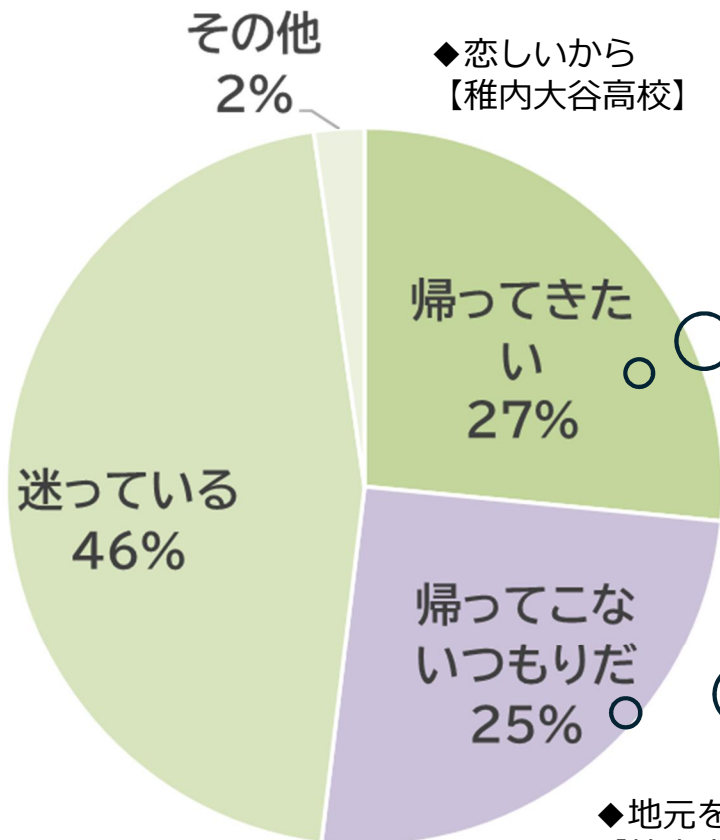
◆空気が綺麗で自然いっぱいなところが大好き。【豊富高校】

◆家族が好きだから【稚内養護学校】

◆稚内が好きだから
【稚内高校】

◆地元を見捨てたくはないから
【枝幸高校】

◆地元が好きで恩返しをしたいから。
【浜頓別高校】



Q 王様だったら何をする？



回答

□ “つくる”を中心に、娯楽など施設を増やす、建てる

◆娯楽施設や飲食店を発展させ、地元の人は過ごしやすく、
他からも移住者が増えるような取り組みをしたい 【豊富高校】

◆若い人増やす 【礼文高校】

◆稚内を首都にする 【稚内高校】

◆野球チームをつくる 【稚内養護学校】

◆若者のためにも楽しい町になるよう、学生でも行きやすいお店を作ってもっと暮らしやすい町にします。【枝幸高校】

◆稚内と利尻と礼文を橋でつなげて、観光客がすべての街を観光しやすく、物流を盛んにする 余っている土地を利用して大きな商業施設を建てる 空き家を減らす 青函トンネルみたいなトンネルを稚内・利尻・礼文とつなげる 【利尻高校】

◆遊園地とかショッピングモールいっぱい作る
【稚内大谷高校】

◆学生が友達と集まった時に遊べる場所作る。観光客向けだけじゃなくて地元の人のためにも行動したい。じゃないと若者いなくなるから 【浜頓別高校】

～高校生と共に宗谷地域の未来を創ろう～

開催概要

- ◎日時：令和6年10月8日(火) 14:00～17:00
- ◎会場：稚内総合文化センター 小ホール（稚内市中央3丁目13番23号）
- ◎参加：約100名
- ◎プログラム
 - 第9期北海道総合開発計画の概要
 - 北海道総合計画などについて
 - 基調講演 「北海道開発の歩みとこれから ―共に未来を創るために―」
北見工業大学 教授 高橋 清 氏
 - パネルディスカッション 「宗谷管内の高校生が考える明るい未来」
☆コーディネーター 北見工業大学 教授 高橋 清 氏
☆パネリスト（五十音順）
「何もない静かな山奥 ぶんちゃんの里」 小 川 文 夫 氏
NPO 法人 街にいき隊PRO 尾 崎 篤 志 氏
FMわっぴー パーソナリティ 川 島 幸 子 氏
稚内大谷高等学校 校長 平 岡 祥 孝 氏



【基調講演】高橋教授



パネルディスカッション



小川文夫氏



尾崎篤志氏



川島幸子氏



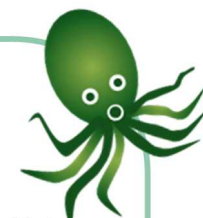
平岡祥孝氏

主なご意見

- 高校生アンケートで「稚内牛乳を海外に輸出しては」という意見があった。小・中・高校生にもっと酪農の大切さを伝えていけば酪農のイメージも変わってくるのでは。（小川氏）
- 飲食店、ショッピングセンターなど地域の供給力を高めることが若者の流出を食い止めることにつながる。また、女性の雇用力を上げることや、高速道路など社会資本整備を通じ本州と結んでいくことが重要。（平岡氏）
- 今後人口が増えることは考えにくい、人口を減らさない対策はとれるはず。また田舎暮らしを希望する人は多いので、外部から人を呼び込むためには住民の優しさを伝えるべく出会いの場をつくることも重要。（小川氏）
- 行政、地域、民間が一緒に考えて、やりがいのあるフィールド、仕事を作っていかなければならない。若者は生き活きと活躍できる場を求めており、一方で地域では人手不足の状況もあるので、ここを上手くマッチングできる仕組みを作る必要があるのでは。（尾崎氏）
- 地元が好きと思えることが大切。女性には特に子育ての環境が重要。稚内市の保育所は待機児童がゼロ、自然も豊かで子育てには大変いい環境。お金では代えられない地元の良いところをもっとPRしていく必要がある。（川島氏）
- 観光立国を先導する世界トップクラスの観光地づくりのためには、広域的に連携して取り組んでいくことが大切ではないか。その結果、地域に仕事生まれ、子供たちが帰ってくるかもしれない。（尾崎氏）
- 稚内の高校生は稚内観光マイスター試験を受験している。自分のまちに誇りが持てるいい機会、その中からリーダーシップが取れる人材が生まれる可能性も高いと信じている。（川島氏）
- 交通インフラの基本は便数と時間帯。バスだけ、鉄道だけ、飛行機だけでは無理なので組み合わせ、最北の稚内と札幌、首都圏、関西圏といかに結んでいくか。交通政策も組み立てていただきたい。（平岡氏）
- ローカルに目を向けながらグローバルに対して発信していくことが重要。（高橋氏）
- 「ローカルからグローバル」をキーワードに、高橋氏およびパネリスト各位からの提言に基づき来年以降も継続的にイベントを行っていきたい。（稚内開発建設部・林部長）

SoyaLabo10ミーティングとは？

H29（第8期計画策定後）からの取り組みであるパートナーシップ会議について、第9期計画がスタートしたことに伴い、発展的に見直したもの



目的：道北連携地域『地域づくり推進ビジョン』に掲げる「地域重点プロジェクト」を推進するにあたって、行政として定期的に地域の実情を確認し、また、国、地方公共団体、住民、NPO、企業、教育機関等との連携・協働の促進を図ることを目的とする。

参加者：10名程度（R6は別紙参照） ※次年度以降はテーマに応じて選出・原則民間から選出

開催方法：参集・WEBのハイブリット ※報道機関、学生等による聴講 HPに動画掲載（市町村・地域住民への情報発信）

主催：稚内開発建設部 **オブザーバー：**宗谷総合振興局・育英館大学

開催時期：令和7年1月30日（木） 13:00～15:30 **司会進行：**FMわっぴー

内容：キックオフミーティングの説明・意見交換（人口流出の防止等）

稚内開建参加者
総務次長・地域連携課

会議のねらい



01

人材の横の連携

02

新たな地域間連携の創出

03

地域重点プロジェクトのフォローアップ

04

地域づくり連携会議へ情報提供

05

市町村・地域住民への情報発信

共創

官民連携のプラットフォームの構築

SoyaLabo10シンポジウム ソウヤラボテン

対象：地域住民、関係市町村、関係団体等

内容：基調講演、パネルディスカッション

第9期北海道総合開発計画 第3章 第3節 計画の進め方
2. 計画の実効性を高めるための方策（1）官民の垣根を越えた「共創」
多様な施策の実施主体による官民連携のプラットフォーム構築

根拠：第28回国土審議会北海道開発分科会（2024年2月1日）
資料6「計画の推進について」に基づく広報・広聴活動



宗谷地域づくり連携会議

根拠：宗谷地域づくり連携会議及び道北地域づくり連携会議・合同会議設置規約
（平成14年2月4日）

参加者：振興局長 / 市町村首長 / 商工会議所 / 商工会連合会 / 稚内観光協会 / 稚内建設協会 / 育英館大学 / 寒地土研

内容：地域づくり推進ビジョンの策定、意見交換

名称変更

SoyaLabo10ミーティング ソウヤラボテン

H29（第8期計画策定後）からの取り組みである
宗谷版北海道価値創造パートナーシップ会議を発展的に見直し

目的：道北連携地域『地域づくり推進ビジョン』に掲げる「地域重点プロジェクト」を推進するにあたって、行政として定期的に地域の実情を確認し、また、国、地方公共団体、住民、NPO、企業、教育機関等との連携・協働の促進を図ることを目的とする。

内容：地域で活躍する方々による意見交換等



H30 管内学芸員等の相互交流

H30 南宗谷3町の相互交流

共創

可能な取組は迅速に対応